

令和五年歌会始御製御歌及び詠進歌

友

御製

コロナ禍に友と楽器を奏でうる喜び語る生徒らの笑み

皇后陛下御歌

皇室に君と歩みし半生を見守りくれし親しき友ら

皇嗣殿下

彼方^{をちこち}此方を友らと共に行^{ゆきめぐ}巡り聞き初^そめしことに喜びありぬ

皇嗣妃殿下

春^{はる}楡^{にれ}の卓の木目を囲みつつ友らと語る旅の思ひ出

愛子内親王殿下

もみぢ葉の散り敷く道を歩みきて浮かぶ横顔友との家路

佳子内親王殿下

卒業式に友と撮りたる記念写真裏に書かれし想ひは今に

正仁親王妃華子殿下

友よりの封書に貼られし海外の風土の切手をルーペに見入る

寛仁親王妃信子殿下

老犬^{いた}を悼^{いた}む思ひが友からの賜^たびし子犬の声^{こゑ}に救はる

彬子女王殿下

器からこぼれてしまつた言の葉を静かにつむぐ友の横顔

憲仁親王妃久子殿下

もみぢ
紅葉する木より聞こゆる鳥のこゑ黒姫の森を友と歩めば

承子女王殿下

巖かに巫女の舞ひたる倭舞ひ外つ国の友と我ながめをり

御製

コロナ禍に友と楽器を奏でうる喜び語る生徒らの笑み

天皇后両陛下には、令和三年十月三十日、和歌山県で行われた、第三十六回国民文化祭・わかやま2021及び第二十一回全国障害者芸術・文化祭わかやま大会に、オンラインで御臨席になりました。

その際、国民文化祭のイベントの一つである「吹奏楽の祭典」において、演奏者の高校生と御交流になる中で、吹奏楽部の生徒さん達が、新型コロナウイルス感染症対策として、生徒同士の距離を空けたり、パートごとに分かれて練習をしたり、楽器の用意や片付けの際に部室へ入る人数を絞ったりしながら練習を続けてきた話をお聞きになりました。

この御製は、生徒さん達が、様々な制約がある中でも、創意工夫をこらしながら楽器の演奏を続け、コロナ禍でも友達と一緒に演奏できる喜びを語った姿をうれしく思われるとともに、人々に早く日常の生活が戻ることを願われるお気持ちをお詠みになったものです。

皇后陛下御歌

皇室に君と歩みし半生を見守りくれし親しき友ら

天皇皇后両陛下がご成婚になりましたのは、平成五年六月九日のことでした。皇后陛下には、昨年令和四年十二月のお誕生日に、皇室にお入りになってからの時の長さがご成婚前までと同じ位になりましたことを感慨深くお思いになり、この間多くの方に支えられてきたことへの感謝のお気持ちを、お誕生日をお迎えになる「ご感想」の中でお表しになりました。

この御歌は、皇后陛下が、これまでの日々を温かく見守ってこられたご友人達への感謝のお気持ちをお詠みになったものです。

皇嗣殿下

彼方此方を友らと共にゆきめぐ行巡り聞き初めしことに喜びありぬ

秋篠宮皇嗣殿下は、高校生の頃から十数年前まで、いろいろな場所をお知り合いの方々を訪ねて回られました。特に総合研究大学院大学のプロジェクトに参加されていた時は、殿下を含む参加者が訪問先の地元の人たちにさまざまな質問をし、そこから得られる答えに新鮮さと心弾むような気持ち覚えられたそうです。そのような思い出をお詠みになりました。

皇嗣妃殿下

春榆はるにれの卓の木目を囲みつつ友らと語る旅の思ひ出

秋篠宮皇嗣妃殿下には、昨年の春、ご友人方に誘われてお出かけになる機会がありました。その折に、ハルニレの木目を生かした温かみを感じられる大きな卓を囲み、ご自分たちのさまざまな旅の思い出を語り合われました。感染症対策をされながら、お久しぶりに、こうして一緒に座って語り合うことができたことに感謝され、歌をお詠みになりました。

愛子内親王殿下

もみぢ葉の散り敷く道を歩みきて浮かぶ横顔友との家路

このお歌は、昨年の秋、お住まいのある皇居のお庭を散策され、散ったもみじの葉に覆われた道をお歩きになった時に、かつてご友人と一緒にみじの葉を踏みしめながら歩かれた学校の帰り道を思い出され、そのご友人のことを懐かしく思われたお気持ちを詠みになったものです。

佳子内親王殿下

卒業式に友と撮りたる記念写真裏に書かれし想ひは今に

佳子内親王殿下には、高校の卒業式の日にご友人お二人とお写真を撮られました。後日、ご友人が印刷したお写真の裏にメッセージを書いて渡してください、その想いが三人の中で今も続いていると感じられたことを歌にお詠みになりました。

正仁親王妃華子殿下

友よりの封書に貼られし海外の風土の切手をルーペに見入る

寛仁親王妃信子殿下

老犬を悼む思ひが友からの賜びし子犬の声に救はる

寛仁親王妃信子殿下には、昨年、長きにわたって可愛がつてこられた愛犬が、天寿を全うし旅立つこととなり、深い悲しみの中で日々を過ごされていきました。

そうした折、心あるご友人方の配慮により、誕生したばかりの新しい命との出逢いの機会をお持ちになりました。誠に愛くるしいその子犬は「モモ」と名付けられ、今では、妃殿下の愛情を受けて元気に遊び回っています。

天国に旅立った愛犬と過ごした記憶とそれを悼む思いが、この度出逢った子犬の元気な声によって、少しずつ良き思い出に変わりつつある妃殿下のご心境をお詠みになったお歌です。

彬子女王殿下

器からこぼれてしまった言の葉を静かにつむぐ友の横顔

一人でいろいろなものを負って走り続けてきたご友人が、その重さと辛さについてぼつりぼつりと打ち明けてくれる横顔をご覧になりながら「少しでもその荷を軽くする手助けが私にできたらいいな」とお思いになった夜のことお詠みになったお歌です。

憲仁親王妃久子殿下

紅葉もみぢする木より聞こゆる鳥のこゑ黒姫の森を友と歩めば

未来のために森を守り、黒姫の地に生物多様性豊かなア
フアンの森を甦よみがえらせた三十年来のご友人、故C.M.ニコル
氏との思い出をお詠みになったお歌です。

承子女王殿下

厳かに巫女の舞ひたる倭舞ひ外つ国の友と我ながめをり

コロナ禍か前、妃殿下とご一緒に、外国から訪れたご友人家
族を明治神宮へ案内された時のことを懐かしく思い出され、
お歌に詠まれました。

召人 小島ゆかり

旧友のごとくなつかしあかねさす夕陽の丘に犬とゐる人

選者 三枝昂之

月蝕ののちの望月くまもなき地上にわれが友垣がゐる

選者 永田和宏

悪友と呼びたき友のいくたりを思ひ浮かべてゐる月の食

選者 今野寿美

「みづの上」につらつらしるす一葉の友といへるもなくとぞあるを

選者 内藤 明

海越えて柔らかき声まだ逢はぬ友といつしか卓を囲まむ

選 歌 (詠進者生年月日順)

岡山県 藤井正子

温もりの残る手袋渡されて君は友より夫をっしとなりぬ

熊本県 三浦清美

卒論は梶井だつたね君だけが四十二歳しじふにさいのままなる友よ

東京都 久和鏡子

キスゲ咲く尾瀬の木道友の背のリズムで歩くすこし離れて

新潟県 相川澄子

友だちはゐないんだよと言ふ君の瞳の中にわたしを探す

神奈川県 岩田真治

つくるでもできるでもなくそこにゐたあなたをわたしは友とよんでる

茨城県 芳山三喜雄

ともだちを友人と呼ぶやうになり子は就活をほどなく終へる

島根県 榛松友香

「母さんも友だちできた？」と小一の吾子あこに問はれし仕事の初日

京都府 丹羽紗矢香

友といふ言葉を知らぬ一歳が泣いてゐる子の頭を撫なでる

東京都 吉田直子

みづいろの絵の具ばかりを借りにきた友の見てゐた空を知りたい

山梨県 小宮山碧生

友の呼ぶ僕のあだ名はわるくない他のやつには呼ばせないけど

佳 作 (詠進者生年月日順)

広島県 小松峯雄

グラマンの掃射さうしややみたる溝のなか友とふたりのくぼみ残りき

長野県 木下瑜美子

歌会を切り上げ現場へ向かふ友つねに木の香かのする大工なり

福岡県 野瀬雅子

遠足で見せびらかした玉子焼き寂しく笑った友よごめんね

徳島県 木内照代

春一番となりてわれらを駆け抜ける学友同士の古稀ちかき婚

山形県 三浦大三

シヤガールひに惹かれしころを語らへば妻は友へとしばし返りぬ

それぞれの故国を想ふ僚友^{れういう}と集ふこの地を「居場所」と願ふ

和歌山県 中尾加代

沖縄をふる里に持つ友がゐる時を「本土の人」と言はれる

兵庫県 佐竹美香

何もかも揃ひにするのが楽しくて親友なんだと信じてゐる日

京都府 谷口喜代子

永遠だよ誕生日カードの決まり文句友よ初めて約束破つたね

青森県 田茂博之

我が畏友ただひと度^{たび}の失敗は津波が来ても続けた勤務

神奈川県 加藤英索

春の日に近くに來たと友笑ひ心の荷物引き取りてゆく

千葉県 坂本えり奈
ともこ

吾のこと自分の娘と間違へる老女の隣で友子となれり

新潟県 今井瑞穂

やな奴も気の合ふ奴もすこしゐてみんなまとめて友達だった

新潟県 熊倉未羽

部活後の階段友と駆け降りた八番線はもうないけれど

新潟県 長澤和哉

野球部の友は試合に負けた事吹奏楽部の僕にあやまる